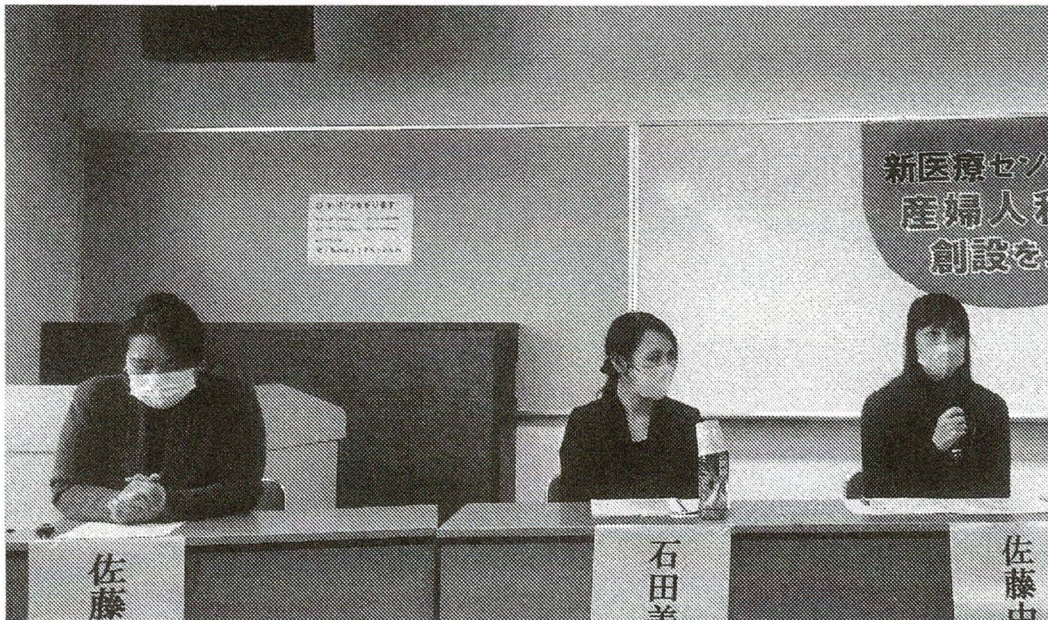


近くで安心して子どもを産みたい！

～助産師＆ママたちによるトークセッション



3月30日に開催された「助産師＆ママたちによるトークセッション」のパネラーのみなさん。ママさんお二人は、自らの体験について率直に発言。県立病院などで助産師として勤務した佐藤さんは、助産師不足の背景や産前産後ケアの必要性について話した。



安心して住みつけられる地域医療をめざす会（略称：安心の地域医療をめざす会）は、3月30日（土）、水沢地区センターを会場に「助産師＆ママたちによるトークセッション」を開催。72人が参加しました。その内容について、お知らせします。



民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049

今回、市が2029年度開設を目指す新医療センターに産婦人科の創設をめざす市民集会として位置づけ、行われたものです。

トークセッションの中で、子育て中のママ2人は、「妊娠中、持病があり不安の中、通院するのが負担だった。近くで安心して産める場所がほしい」「妊産婦支援の充実はありがたいが、タクシー券が足りていない。いざ、という時（タクシー運転手などに）自分の姿を見られたくないなど、利用をためらう妊産婦もいる」など、妊産婦の置かれている状況について、切実に訴えました。

助産師不足の背景には…

県立病院などで助産師として勤務してきた佐藤さんは、助産師不足の背景について、「子どもを産める病院が少なくなつたことによつて、助産師を志す学生をすべて受け入れられない状況に。例えば、クラスの上位10名ほどしか実習できない」と指摘しました。

市の産後ケア事業にも携わつた経験から「産後ケアは予約が埋まっている状態。ケアが必要な人が、必要な時期に受けられないことが懸念される」と語りました。

出産できてこそ子育てナンバーワンのまち！



会場からは、「初めてのお産で里帰り出産を希望したが受け入れられない状況。遠方で実母の協力を得られないことは不幸なこと」「せめて正常分娩だけでも取り扱えないか」などの意見が出されました。

最後に、安心の地域医療をめざす会は、「産科を望む市民の声にこたえようとしない市の姿勢に納得できない。新医療センターに産科を設置することや、病床数の見直しを求めるため、1万人署名に取り組み」ことを提起。取り組みへの賛同と協力を訴え、閉会しました。



朝宣伝、

始めました

新年度が始まり、お休みしていた朝宣伝も再開しました。Zプラザアテルイ交差点での宣伝行動には、千田みつ子市委員長を先頭に、9人が参加。「自民党の政治資金パーティの裏金作りは組織的犯罪！証人喚問で真相究明を！」と訴え、車などから多くの反応が寄せられました。